

総合計画審査特別委員会
基本構想分科会記録

令和3年12月3日

【開催日】 令和3年12月3日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時40分

【出席委員】

分科会長	笹木慶之	副分科会長	森山喜久
委員	伊場勇	委員	白井健一郎
委員	中岡英二	委員	長谷川知司
委員	藤岡修美	委員	松尾数則
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	高松秀樹	副議長	中村博行
----	------	-----	------

【執行部出席者】

副市長	古川博三	企画部長	清水保
企画部次長兼企画課長	和西禎行	企画部主幹	工藤歩
企画課主査兼政策調整係長	佐貫政彰	企画課政策調整係主任主事	藤井貴大

【事務局出席者】

事務局長	尾山邦彦	事務局次長	島津克則
------	------	-------	------

【付議事項】

1 基本構想の改訂及び重点プロジェクトについて

午前10時 開会

笹木慶之分科会長 ただいまから3回目の総合計画審査特別委員会の基本構想分科会を開催します。確認しておきますが、1回目を11月5日、それを受けて、2回目を11月26日に開催しておりますが、その中でいろいろ意見がありました。その意見の集約といいますか、結論的なものに至っていないというところがあって、今日はその辺りを確認しながら、最終的に皆様方の御意見を聞きたいということにしております。私が進行しますが、1点目は重点プロジェクトの2ページなんですけど、将来都市像というところで、スマイルシティ山陽小野田というキャッチフレーズが全国的にどれだけ広まっているか。どのようにPRしているかという部分について、いろいろ意見が出ました。PRが弱いんじゃないかというふうなこともありましたし、いろいろ意見があったわけですが、そのことをまず議題としたいと思っております。それでは、その点について執行

部の考え方をお尋ねしたいと思います。

清水企画部長 それでは、PRをどのようにしているかということについて、御回答したいと思います。御承知のとおり、総合計画におきまして、将来都市像として「活力と笑顔あふれるまち」、キャッチフレーズとして「スマイルシティ山陽小野田」ということを明記しているところです。PRということになりますけれども、まず、総合計画の最初の表紙にも、このように大きく表示をしているところです。施政方針の中におきましても、「活力と笑顔あふれるまち、スマイルシティ山陽小野田」というようなワンフレーズとして、目指してということ、明示しているところです。言葉だけでは伝わりにくいということもあり、ロゴを作成しました。このようなロゴです。見られたことがあろうと思いますが、ロゴを作成し、あらゆるものに活用しているところです。例えば、缶バッジであったり、ピンバッジであったりです。それから、報道発表などに使う背面にありますバックボードの中にも、「スマイルシティ山陽小野田」のロゴを明記しているところです。それから、市が出しております封筒につきましても、この部分ですけれども、大きいものと小さいものの中にも、しっかりロゴを記載しています。それから、本市の紹介冊子でありますSOという冊子を作成しました。この中にも、「スマイルシティ山陽小野田」もありますし、裏面にもロゴを付けているところです。それから、職員をお願いをしているところになりますけど、名刺の裏面について、ロゴをつけてもらうようにというようなことで、職員に対してお願いをしているところです。さらにはスマイルチケット、スマイルエイジング、スマイルキッズ、スマイルプランナー、スマイルハロウィンなど、スマイルというキーワードを使って、「スマイルシティ山陽小野田」ということを浸透しているところです。今後もしろいろな面で活用しながら、「活力と笑顔あふれるまち、スマイルシティ山陽小野田」ということで、山陽小野田市を知っていただけるように、今後もPRしていきたいと思っております。

笹木慶之分科会長 執行部から「スマイルシティ山陽小野田」というキャッチフレーズが、全国的に広まっているかということに対して、こういう方法を取っているという説明がありました。この点について、委員からの意見を聞きたいと思います。

長谷川知司委員 説明ありましたが、効果がどのようなになっているかという確認、あるいは検証とかはされましたか。

清水企画部長　ことあるごとに使っております。それから移住定住のイベントにおきましても、こういったものを表示して、全国的に発信していきたいというふうに思って、使っておりますが、それがどのように全国的に広がっているかというようなことについては、こちらとしては把握しておりません。

白井健一郎委員　移住定住の勧誘のときに、こういうイベントで「スマイルシティ山陽小野田」という言葉を使っているとありますが、具体的には、例えば東京で何回とか、使った具体的なものを教えてください。

清水企画部長　昨年と今年については、コロナの関係でできなかったわけですが、移住定住フェアということで、1月か2月ぐらいに東京で1回行われております。それから大阪でも行われておりますので、年2回程度は、山口県が主催するものであったり、7市町が主催するものであったりというところの移住定住フェアには出席して、いろいろな冊子を配りながら、あるいは動画を見ていただきながら、山陽小野田市を知っていただいているというような状況です。

長谷川知司委員　先ほど、基本構想の表紙にもあると言われて、これを打ち出してから4年はたっているわけです。その検証が必要なのではないかと思いますが、どう思われますか。

清水企画部長　どのように検証したらいいのか、私どもとしては分からないところがあります。できるだけホームページを見ていただくとか、冊子を配る回数を増やすとか、そういったところで測っていくしかないかなというふうに思っております。

長谷川知司委員　一番手っ取り早いのはアンケートをされるべきだと思うんです。まず市民の中でどれだけ浸透したか。それから、県内の方にどれだけ浸透しているか。そして、広く国内でどれだけ浸透しているか。手法は私も具体的には思い浮かびませんが、そういう形で検証して、これをより進めていくというのが大事なんではないかなと思います。

笹木慶之分科会長　アンケートという意見がありました。その辺りの考え方はいかがでしょうか。

清水企画部長 これだけのアンケートというわけにもいかないと思います。総合計画、基本構想を作る段階におきましては、アンケートを取りますので、山陽小野田のことをどう思っておられるかとか、そういった中でキャッチフレーズについては可能だろうと思います。全体を含めた上でのアンケートの中でということで、少し考えさせていただきたいと思います。

笹木慶之分科会長 個別のアンケートは、本当に大変難しいことだと思うので、計画を立てるに当たっての取扱いといいますか、それも一つの方法だろうというふうに思います。

中岡英二委員 これからも、こういうPRをしていくということを言われていましたが、具体的に現在のSNSの発信とかは、どのように「スマイルシティ山陽小野田」を発信しているのか。今後、SNSでの発信をどのようにしていくかという考えがあればお聞きしたい。

清水企画部長 現在ホームページを開設しております。その最初にも「スマイルシティ山陽小野田」もフレーズとして入っております。あとフェイスブックを行っております。それからインスタグラムを活用しようということもありますので、その辺りについては、このキャッチフレーズのみならず、このキャッチフレーズに値する「スマイルシティ山陽小野田」の施策についても、今後、いろいろ展開しながら公表していきたいというふうに思っております。

中岡英二委員 先ほどアンケートを取ってどうのということがありますが、ユーチューブ辺りでは、いいねとか、見た回数とかで反応というのが見られるんですが、そのような考えはありますか。ユーチューブに載せて、アンケートの代わりに関心度を見ていくということですか。

清水企画部長 私どもが発信する情報については、どのぐらい見ていただいたか、いいねを頂いた数も当然あると思いますけれども、見ていただけたかということが大事だと思っております。その辺りはしっかり確認していくように思っております。

吉永美子委員 このキャッチフレーズが全国に山陽小野田のキャッチフレーズとして広まっていくためには、まず市民がどう感じているかというのは、大事なところだと思うんですけども、例えば意見箱とかありますが、こ

のキャッチフレーズに対して、市民の御意見等が入っていれば、お知らせください。

清水企画部長 キャッチフレーズについての御意見はなかったというふうに思っております。

長谷川知司委員 私が言いたいのは、この「スマイルシティ山陽小野田」というのは、それはそれでいいんですが、それを出すことで自己満足に終わってはいけないということなんです。それをもっともっと広く、みんなに知ってもらおうという努力も必要だということをお願いということ、一言申しておきます。

白井健一郎委員 先ほどの話の続きになりますが、例えば移住定住フェアで、「スマイルシティ山陽小野田」という言葉を使って、市を広報するとき、どうでしょう、「スマイルシティ山陽小野田」、確かにキャッチフレーズ、一言でスマイルシティ、笑顔があふれるまちなんだな。これはちょっと内容が分からないんですよ、この言葉だけでは。ですから、同じ広報をされるのであれば、例えばスマイルエイジングとか、スマイル何とかとかいうのとセットにして分かりやすく、やはり移住定住は大切じゃないですか。市の魅力を、「スマイルシティ山陽小野田」をもう一歩深く、中身も一緒にパッケージでといいますか、中身も一緒に伝えてほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。

和西企画部次長兼企画課長 「スマイルシティ山陽小野田」を使うとき、住みよい暮らしの創造等を受けて使わせていただいております。ですから、住みよい暮らしの創造という言葉だけだと、ちょっと難しいんですけど、例えば移住定住フェアでSOスマイルとかを配る中で、いろんな方、実際に住まわれている方々の笑顔があふれておりますし、つまり山陽小野田市というのは暮らしやすいまちなんですよ、皆様が笑顔で暮らすことができるんですよということを、ただ移住定住フェアで、「スマイルシティ山陽小野田」、「スマイルシティ山陽小野田」と言うだけじゃなくて、山陽小野田は本当に暮らしやすいんですよ、だから皆さん、スマイル、笑顔になれるんですよということを言いながら、PRするというのは当然のことです。分かりやすくと言われましたが、実は分かりやすいというのは、「スマイルシティ山陽小野田」の前にある住みよい暮らしの創造というところ、ここをどうPRしていくかということになっておりますので、その辺りにつきましては、職員の中にはしっかり浸透しております

す。そのように、これからもしっかりPRを続けていくようになると思います。

笹木慶之分科会長 今のような説明がありました、白井委員よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかにはありませんか。このことに対する今までの執行部の対応といいますか、全体的に見て、いろんな形でいろんな手法を用いて、しっかりやっているというふうな説明があったと思います。その辺り、皆さんはどうお考えでしょうか。

伊場勇委員 このスマイルシティということは、イメージアップ戦略ですよ。やり始めた当初は、市民の笑顔のボードを作ったりとか、見て感じる事ができたり、それに併せてスマイルハロウィンがあったり、続いてスマイルエイジング入ってきたりとか、順序立ててイメージがどんどん上がってきたんです。コロナの影響もあったかもしれませんが、少し低迷してきていると思っています。市民のボードとかは、どうしたのかなとか思うし、市役所に入ったときにスマイルシティという感じが一切しないじゃないですか。ちょっと個別施策に入ってくるかもしれませんが、イメージアップというところで使うのであれば、もっと表向きにどんどん出していくべきなんじゃないかなというふうに思っています。回数が薄まっている。市民がどう関わっていくのかというところを踏まえて、やらなくてはいけないと思っているんですけども、今はどういうふうにされているのか教えてください。

清水企画部長 玄関に入ってどうかかというのは、確かにあるかもしれませんが。今は半分しか開いていませんし、シティセールス課のところに行けば、物すごくスマイルシティの看板とか立ててありますので分かると思います。全体的にどのようにするかということは、少し研究させていただきたいというふうに思っております。市民を交えてということで、あくまでも市民の方に笑顔が増えないと、笑顔があふれるまちにはなりませんので、その辺りはしっかり市民の方が笑顔あふれるような施策展開を行って、これを覚えていただくというふうになろうかというふうに思っております。

伊場勇委員 いろいろ広報物があると思うんですけども、必ずスマイルを入れていくとかいったところの一貫性がないと、ポスター一つ作るにせよ、そういうところのキャッチフレーズじゃないのかなというふうに思うんです。指標を作るのは難しいと思いますし、どういうふうな影響があ

るかというのは、なかなか調査は難しいと思うんですけども、やはり SNS という話が出ましたが、リーチ数とか、フェイスブックとかのいいね数だけじゃなくて、どれだけの人がどういうところから入り込んで見ているのかとか、そういうところはデータとして見られると思うんですよ。そういうところもすごい気にしていかないと、イメージアップ戦略というのが、文字だけで走ってしまうような気がするんですけど、その辺の追求の仕方というのはどこまで考えてらっしゃるんですか。

清水企画部長 言われたとおり、いろいろ追求していかななくてはいけない部分もあるかと思っております。いろんな手法を用いていきたいというふうに思っております。

笹木慶之分科会長 伊場委員よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかにはありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）このことについては、今までのいろいろな意見の中で、後ほどまとめていきたいと思いますが、取りあえずよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは次に、もう一つあったと思いますが、基本目標の中の5ページだったと思います。要は、前回いろいろ意見があった中で、本市は山陽オートレース場を有し、またゴルフ場利用者の観光客数に占める割合もかなり多い。これらのレジャー産業を地域資源と捉えて生かすために、基本目標の4番の中に、レジャーという言葉を入れるべきではないかというような意見も出ておりました。このレジャーというものの取扱いといいますか、考え方について、再度考え方をお聞きしたいというふうに思います。前回の分科会の中で、そういうところがあったと思います。それをもう一度確認をしておきたいと思います。

清水企画部長 それではレジャーの位置づけについて御回答申し上げたいと思います。レジャー施設の活用につきましては、言われるとおり交流人口の増加によるまちのにぎわいの創出や経済面における好影響を期待できるというようなところですが、ただ、レジャーという言葉につきましては、含まれる範囲を非常に広く捉えております。基本項目の（4）の産業・観光、当然ここにレジャーというのは入ってくると思っておりますし、基本項目5の教育・文化・スポーツにもレジャーというのは当然入ってくるものだというふうに思っております。（4）だけに限ってということではないのかなと私どもとしては考えているところです。

笹木慶之分科会長 今のような考え方ですが、これについて各委員のそれぞれ

の意見を聞きたいと思います。

長谷川知司委員 基本目標4の中にはレジャーという形も当然含んでおるとい
うことなのですが、説明文を読むと、レジャーという雰囲気が出てこな
いんですね。2行目から言いますと、具体的なこととして山陽小野田市
立山口東京理科大学の活用ということと、広域交通の利便性の高さなど
ということで、それから中小企業への支援とか、魅力ある働く場という
形で書いてありますが、やはり山陽オートとかゴルフ場というイメージ
が全然これでは湧いてこないんです。何か言葉が必要じゃないかなと思
うんですが、どうでしょうか。

清水企画部長 この基本目標4の中におきましては、最後の2行目ですけども、
豊かな自然、歴史文化資源などの「など」の中に入ってくるかと思いま
す。本市の魅力を活かして、観光・交流人口の増加を図るほかというふ
うに書いておりますので、一つに特化して、オートであるとか、ゴルフ
であるとか、大きな資源だとは思いますがけれども、そのほかにもきらら
ビーチであったりとか、ガラス未来館であったりとか、いろいろな交流
施設等がありますので、その辺りを包含した言い方という中で、現在こ
ういうふうに掲載しているところです。

白井健一郎委員 この基本目標4の本文が6行ありますが、この1段落目の上
の4行ですけども、これは産業を書いてあると思います。下の2行で
ですけども、これは観光・交流人口の増加について書かれていると思
います。私が思ったのは、2段落目の豊かな自然、歴史文化資源などの、
確かに「など」に入っているんですけども、豊かな自然、歴史文化資源
というのは、自然とか歴史とか伝統とか文化とかいうものであり、例
えば遊ぶということをメインにしたゴルフとか、ゴルフは豊かな自然に含
まれるかもしれませんが、オートとかは明らかに傾向が違いますよね。
ですからここに一言、遊びとかいうイメージを持てる言葉を入れたら
いいんじゃないでしょうか。ですから、例えば産業・観光・レジャーとい
うふうに、そこにレジャーを入れる必要はないと私も思いますが、その
ほうが、この観光のところ豊かに豊かな自然、歴史文化資源だけではなくて、
もう一つ、何か遊びの要素もあるといったイメージがちょっと膨らむと
思うんです。

長谷川知司委員 そのことが基本施策25の観光交流の振興に行くわけですね。
そのときも私たちが基本計画で話をしましたが、オートレースやゴルフ

場については一切述べられてないわけなんです。やはりそういうことも大事にさせていただきたいと思います。

笹木慶之分科会長 長谷川委員が言われたのは、総務文教分科会の中での意見も踏まえてということだと思んですけど、当然基本事業として関わってきますから、その辺について言われたんですが、いかがでしょうか。

清水企画部長 確かにそういうところがなかなか見えないというところはあるかと思っておりますが、私どもとしては「など」の本市の魅力ということで包含させていただいているというところは、繰り返し御説明をさせていただきたいと思います。私どもが今回、基本構想を改正するに当たっての大きな考え方としましては、基本構想は12年間の構想であるということがあります。4年前に作成した構想から、4年間でどのような社会情勢の変化があったとか、あるいは新たに発生した行政課題についてという観点から、今回改正にすべきものについては改正する、そこまで行っていないものについては触っていないというような考え方もあるということは御理解いただきたいと思います。

笹木慶之分科会長 基本構想が12年スパンで考えられているということは、前回の分科会でも出ました。もちろんそれを基に皆さんが意見を言っているわけですが、そういう背景を踏まえて意見がありますか。

藤岡修美委員 レジャーを含むか含まないかという議論になっているんですけども、基本目標の最初の1行目の本市を発展させ、活力とにぎわいを生み出す源は産業活動にありますとあります。レジャー産業という言葉もありますし、産業活動にレジャーも含まれているという捉え方はできないんですか。

清水企画部長 言われるとおり、レジャー産業というのはあると思いますので、その辺りは含まれる部分もあろうと思います。

笹木慶之分科会長 レジャー産業というふうになると、産業建設分科会の中で、その辺りはどうだったんでしょうか。

藤岡修美委員 特にその辺りの議論はありませんでした。

白井健一郎委員 先ほどの部長の議論についてなんですけど、確かにこれは1

2年間の総合計画の前期4年間の様々な事情の変化によって、どう変わっていくかということが重視されるのは分かりますが、ここに遊びの要素を入れると、より市のイメージが豊かになるという点では間違いないと思いますから、それをそういう理由で却下するのは、私としては納得できないところがあります。

清水企画部長　そういう意味で取られたのは大変申し訳ありませんでした。あくまでも、私どもがこの度改正に至ったところについて話しているところですので、議会で議論された中で入れるべきであるとか、ここを変えるべきではないかということがあったことについて、私どもが否定するものでは当然ありません。その辺りは御理解いただきたいと思います。

松尾数則委員　頂いた資料の中に観光はレジャーに含まれる。併記すると違いがよく分からないというような表現がありますけれど、だから載せないんだという理由にはならないような気がしなくもない。例えば、国の調査では、ゴルフ場利用客は観光客数に含んでいると定義してありますけれど、ある意味、山陽小野田市、例えばゴルフの利用者というのは大きな目玉の一つなんですよね。四つも五つもゴルフ場があるところは山陽小野田市だけで、ほかのところにはないわけですから、その辺も含めて、この中で観光・交流、大きな交流の要素だと思っています。そういうことも含め、観光・交流の中にレジャー辺りも入れていったほうが良いと思っているんですけど、いかがでしょうか。

清水企画部長　言われるとおりゴルフ場については、市内6か所にあるということで、大変珍しいところで、本市の魅力であろうと思っております。ですから市を知らせるSOスマイルの中にも書いていますし、スマイルスポットということで20代から40代の女性をターゲットにした冊子なんですけど、その中にもゴルフ場の宣伝ということはしっかりしております。今後もゴルフ場の活用というか、交流の拠点としてのPRは続けていきたいというふうに思っております。レジャーという言葉にこだわって申し訳ないんですけども、やはりレジャーというのはゴルフも当然入るでしょうし、自然と触れ合うということもレジャーであるというところがある中で、ここでレジャーとして特記すると、レジャーとは何だろうとなるのかなというところがあります。観光も当然レジャーに入ってきますので、回答としては、レジャーと入ると大きな意味を持ってしまうので、私どもとしてはちょっと難しいのかなということで御回答申し上げたところです。

松尾数則委員 何度も申し上げるようだけど、レジャーというのは、ある意味山陽小野田市の目玉の一つではないかと認識しています。ただ、そういう方向に山陽小野田市を持っていくというのも一つの手段ではないかなと認識しています。それも踏まえて、レジャーですからいろいろあります。スケートボードとかいうのも含めて、行政のほうでは、そういう目玉に持っていきこうとかいうような要素は、今のところ考えていらっしやらないわけですか。

清水企画部長 レジャーには、いろんな分野が含まれているということがありますので、いろんな分野で関わってくると思っております。中期基本計画の中に入ってはいけないのかもしれませんが、基本施策の中の公園緑地の整備の保全とかいったことについてもあります。それは自然であるとか、キャンプ場であるとかいったことも入ってくるでしょうし、商工業の振興についても、ショッピングというのもレジャーの一つだと思っておりますので、その振興もしっかりやっていきたいということです。それから先ほどから出ています観光・交流の振興ということで、これについても当然観光がありますし、花の海という施設もありますし、きらら交流館もあります。そういったところでのレジャーということがあると思います。それから芸術文化によるまちづくりの推進ということで、これはガラス未来館であるとか、かるたであるとか、そういったことも全て関わってくると思っておりますし、スポーツによるまちづくりの推進ということになりますと、これはレノファ山口といったところとの連携とか、そういうことも考えられると思います。あらゆる部分で市の魅力を使いながら、レジャーという分野でいろんなところから、いろいろな施策を展開していくということは考えているところです。

笹木慶之分科会長 清水部長から、レジャーに関する市政の在り方について、幅広く説明があったと思います。私からお尋ねします。それらが地域資源じゃないですか。私はそう捉えているんです。レジャーという言葉の定義だけでいくんではなしに、市民が描いているイメージの中に、遊びの心を踏まえた、余裕のある時間を有意義に使いたい、使える場所がある。それがあつては産業振興になるものもあるでしょうし、市の財政的なものに直結するものもあるでしょう。それから、当然これはスマイルに直結するものであるというふうに思うんですよ。正に人口交流の大きな付加価値を生み出す要素のものを、言葉の定義だけにとらわれず、もっとやわらかく表現したらいいんじゃないかというのが、私も以前言っ

たそこなんですよね。幅広い意味での地域資源を生かしたという、これに引っ掛けた表現が乏しいんじゃないかというのが皆さんの意見だと思うんですけど、その辺りはどうお考えですか。

清水企画部長 皆さん方いろいろ言われていますが、私どもとしても反対するつもりはありません。地域資源ということであれば、地域資源とっております。足りないということであれば、それは足りないのかなというふうに思っています。

笹木慶之分科会長 ちょっと何かもやもやとしたところがありますが、委員の意見は意見として執行部は受け止めるということも言われましたし、全体の流れとしての最終的なまとめをしなくてはならんというふうに思うんですが、この点については、これ以上聞くことはありませんよね。（「はい」と呼ぶ者あり）企画への質疑はこれで終えてよろしいですか。

伊場勇委員 議題の二つのことじゃないんですけど、自治基本条例のことで、先日確認しましたけども、「市民が主役のまちづくり」というふうに自治基本条例にあります。これは、「誰もが主役」という言葉と、あと「協創」という言葉でこのまちをつくっていきこうという現状、自治基本条例は「協働」という言葉が使われているんですよね。その辺を改正されるとか、いろいろあるんでしょうけど、この基本構想、総合計画との関連性とか、この前質問してから何か進んだこととか、考え方を改めて確認させてもらいたいんですけども。

笹木慶之分科会長 意味は分かりますかね。今の質問の意味は。

和西企画部次長兼企画課長 今年度、自治基本条例の改訂に年度末まで取り組む予定にしております。その中で、今の点は検討に入っていくようになると思いますが、今のところ今の2か所、御指摘の点については今から協議をしっかりと進めていきたいと思っております。昨年度というか、3月に策定した「協創によるまちづくり推進指針」では、自治基本条例との整合というページを設けておまして、「市民が主役」というよりは、「誰もが主役」という「協創」という考え方に基づくけば、そういう考え方になるなというところと、「協創」という考え方と、自治基本条例で「協働」という言葉をうたっていることについても、箇所として触れております。「協創」は「協働」から進化した形だということで明記させていただいているところですよ。

笹木慶之分科会長 今回の件は基本構想とは特別関わりがないので、その他の意見ということで置いておきます。

長谷川知司委員 基本構想そのものは12年の中での考え方だということは理解しておるんですが、国では脱炭素、カーボンゼロですか、そのことは盛んに言われており、今後あと8年ある中で、やはりそれがどんどん進むというのは推測されるわけです。そのことに全然触れられていないんですが、触れられていない理由というのがあれば教えてください。

笹木慶之分科会長 この項目に外れますが、いいですか。

和西企画部次長兼企画課長 SDGsの際にも言ったんですが、世界の動き、国の動き、県の動き、市の動き、それぞれ掲げる目標に対して、どう落とし込んでいくか、ローカライズというんですけど、その点について、来年度以降4年間の計画においては、環境の保全の部分があるんですけど、具体的に国がカーボンニュートラルを掲げていることに対して、落とし込みがうまくできていないというところもあります。具体的施策で何を進めていくかというところについては、これからもしっかり注視しながら、4年先の後期の策定の際には、そのような世界の動き、国の動き、県の動きを見ながら、市が何をすべきか、具体的施策でどう落とし込んでいくかという辺りは、しっかり書き込まざるを得ない可能性もありますし、この4年間で柔軟に対応していくべきところとなりましたら、実施計画の中で進めていくようになるかと思います。

長谷川知司委員 分かりました。今後の動きを見るということですね。

藤岡修美委員 2050年のカーボンゼロに向けての取組の説明だったと思います。SDGs自体は市の行政そのものがSDGsの取組だという説明があったと思うんですけども、小中高、子供たちもその辺を理解しつつあって、例えば、その辺の子供たちから、市の取組はどうなんだというような質問があったときに、市としては、今の行政で全てがSDGsの取組につながっているという回答をされるんでしょうか。

和西企画部次長兼企画課長 市が取り組むということにつきましては、それなりに成果指標等を掲げていかなければいけないかと思っています。先進地と言われるところのSDGs指針等、全国的に私も見させていただきま

した。掲げている指標が、行き着くところは総合計画の基本施策の指標をそれぞれの17の項目につなぎ合わせて、リンクさせているような形を取られているのが大半です。言い換えれば、総合計画、市の計画を実施することが、SDGsを進めるということに変わらないのではないかという判断に至りまして、今回、市の施策を進めることがSDGsですというふうに書かせていただいた次第です。指標をどう掲げるかというところに市としてはリンクしていきますので、環境教室をこの1年の間に各校で100回やりましたが、その100回をクリアしましたというところがSDGsかと言いますと、それはSDGsではないのではないかという判断に至ると思います。だから、やらないということと、SDGsに取り込まないわけではないので、山陽小野田市としてはSDGsには取り組むんです。ただ、見せ方として、ほかの市のようにSDGs指針みたいなものは掲げず、全ての指標がまちの持続性を担保するという観点からSDGsですという考え方に至っているというところを御理解いただければというふうに思います。

藤岡修美委員 SDGs 17の目標がありますよね。それぞれの目標を提示することで、例えば、縦割り行政と言われている課同士が、その目標を捉えることで、何かそれがプラットフォームになって、職員の理解が深まるというか、施策が広がっていくというか、その辺りの効果というのはどのように考えておられますか。

和西企画部次長兼企画課長 本市におきましては、国が掲げる17の目標にひもづくところは全ての施策だというふうに位置づけております。それぞれの課において17のゴール、それから169のターゲットにどうはまっていくなかというものは、それぞれの職員が自分たちでしっかり意識しながら進めていくことになるかとは思いますが、もう一つSDGsというのは2030年までの時限目標になります。恐らく、また2028年ぐらいに国連がいろいろと目標を掲げるかもしれませんが、実は山陽小野田市は持続可能なまちにするにはどうしたらよいかということで、今回の中期に取り組んでおります。その中で日本の高齢化が一番進む2040年の姿をしっかりと描いていきたいと思います、2030年を通過させた先ですね、そういう考え方を共有して、各課の課長の皆さんに集まってきたりまして、計画を作っていました。SDGsは結局何が目的かということ、持続可能なまちを作っていくということなんです。それについては全く一致しているということです。あとは、見せ方をどうするかということになるとは思いますし、あとは職員がそれぞれどう意識していくか、

これから先、職員がどう考えるかになるかと思えます。

藤岡修美委員 職員の考え方という話があったんですが、その辺りの職員の理解度について、一般質問したときには、かなり職員が理解しているという答弁だったんですけど、研修等で職員がSDGsと総合計画をどの程度理解されているのかお聞きします。

和西企画部次長兼企画課長 何回も繰り返しになりますが、この総合計画がSDGsに取り組むということで山陽小野田市は表明させていただくことになりますので、それぞれの部署で、議会の議決を頂いた後は、この総合計画をどう理解していくかというのは、部内、課内の話にもなりますけれど、企画部からしっかりと職員のほうに周知する場を設ける必要があるかなと思っております。

白井健一郎委員 私は民生福祉分科会の副会長なんですけれども、民生福祉分科会で脱炭素化に向けてどういう話合いがあったかを御報告します。基本施策13なんですけれども、自然環境の保全、循環型社会の形成の基本事業2になんですけれども、地球温暖化対策の推進という項目がありまして、ここの2行目の後半からですが、行政自ら環境負荷を低減させる行動を積極的に推進しますとあります。ただ、評価指標としての下二つには行政が、言ってみれば市役所がどういうふうに脱炭素化、省エネを進めていくかということについて目標がなかったので、委員から指摘がありまして、結局、温室効果ガス排出量についての現状値を令和元年、そして目標値である令和7年に46%減を目指すということをお話ししました。そういう過程があります。

笹木慶之分科会長 分科会での審議の過程を言われたわけですね。そのことは基本構想うんぬんということにはなっていないわけですね。よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）そこはちょっと問題ですからね。一つだけ意見というか、ちょっとよく分からないところあります。和西課長が言われた、確かに総合的な計画を立てる中で、全体にかぶさるものについては、そういう方向性の中で、単独で明記しないという方法もありますが、やはりこれは国においても個別項目、例えば強靱化うんぬんとか、それから脱温暖化法の改正がどうだこうだという別項目で、国から方針が出ているんですよ。やっぱりそういったものを受けた市の方策も必要じゃないかなというふうに思うんですが、それから先は一般質問に関連してくるからやめますけど、そういうことがあるので、これは非常に重

要な案件ですから、今言われたように、これからよく状況を見て、そしてしっかり対応していくという方向性のようですから、それはそれとして、ここで置いておきたいと思います。よろしいですか。これは突き進んでいっても、なかなか基本構想の分科会では方向性が出ないと思うんですが、どうでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）いいですかね。それから藤岡委員もSDGsのことを言われて、その心は分かるんだけど、それをここに導入というわけにはいかないと思います。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、企画からの説明を受けましたので、ここで休憩したいと思います。10分休憩し、11時から再開したいと思います。

午前10時50分 休憩

午前11時 再開

笹木慶之分科会長 休憩を解いて分科会を再開します。前回の中で、もう一つ皆さん方の意見が出たのが、目標指標であるとか、あるいは評価指標の設定内容について、各分科会でいろいろ議論となった。指標の設定についてはもう少し執行部の中で議論が必要ではないか、あるいは達成すべき数字として挙げるものを、達成できる数字を挙げているのではないかというような、きわどい話があったわけですが、分野別計画の構想は、基本構想分科会の担当事務外であるということで、そのことを議論するのは、ちょっといかがなものかという気がします。そういった意見を根拠にそれぞれ分科会の修正が加えられているということも、状況から見えております。この点については、そういう意見もあったということはそうでしょうが、この基本構想委員会で取り上げる事項ではないと思うんですが、いかがでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

吉永美子委員 なぜ申し上げたかというのと、議論していく中で分野別計画の構成については入っているんですかと言ったら、入っていますと言われたから、やり方については、具体的にしているので、高く評価しているんですけども、目標指標というところで、ここではもう少し議論していただくべきだったのではないかとこのことを申し上げて、達成できる数字を挙げているということは、私は発言した記憶はありません。要は、もっと議論して、分科会の中でかなり議論があったので、もう少し庁内で議論をして出されたほうがいいんじゃないでしょうかということをお願いいたします。

笹木慶之分科会長 したがって、それについては分科会で行うということで、基本構想分科会の中でそれを取り上げて、意見なりを申し上げるというのは分野外であるということだと思います。気持ちは分かります。それから吉永委員が言われたからというわけではなく、誰からというわけではなく、達成可能な数字を挙げているとかいうようなことも委員会記録の中に残っておりますので、そういったことを含めて申し上げたわけで、それはどうだこうだというわけではありません。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それではちょっとほかのこともありますので、暫時休憩します。

午前11時5分 休憩

午前11時35分 再開

笹木慶之分科会長 それでは休憩を解いて基本構想分科会を再開します。今まで協議したことについて、最終的に確認したいと思いますがよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）最初のスマイルシティ山陽小野田というキャッチフレーズが全国的にどれだけ広まっているのか、PRが足りないのではないかとということで意見がありました。執行部からも具体的なPRの手法も列記されて、説明があったわけで、委員としても、いろんな形で思いがあったと思いますが、一応それはそれとして納得されたというふうに理解したいと思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それから2点目のレジャーの捉え方の問題です。これについても、個別には総務文教分科会で個別案件として協議されたようですが、そういったものも踏まえて、先ほどからいろいろ意見がありました。確かに、このレジャーの位置づけというのは、本市にとっていろんな面、多面的な要素を持っているということは、皆さんの意見でよく分かったわけですが、これを基本施策の担当の分科会で一定の表現をされるとは思いますが、それ以上のものには至っていない。それから、もう1点は前回の基本構想の中にも具体的な事例として挙げてないということを踏まえて、一応分科会として、いろんな立場で意見があったということを分科会の意見として、皆様方に報告をするという形で取りまとめたいと思いますが、よろしいですか。したがって、修正はしないということです。

伊場勇委員 分科会長がおっしゃいましたが、やはり本市の特色であるレジャー産業の振興は、交流人口の増加につながることをしっかりと考

慮して、今後取り組んでいただきたいというような趣旨を、しっかりと伝えていただく。修正まで至らなくとも、しっかり分科会としての意思をしっかりと伝えることが必要だと思えます。この事項については、会長と副会長にまとめていただいて、お任せしようというふうに思っております。

笹木慶之分科会長 私の舌足らずな面がありましたが、もちろん個別の要素についてはきちっと明記して、そういうことがしっかり議論されたということをお伝えしたいというふうに思えます。内容等については、もう一度副会長と調整をして、また後日お示しします。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）もう1点は指標のことがございました。目標指標とか、評価指標のことがありましたが、これは基本構想分科会の担当外のことであるということで、それぞれの分科会でしっかり、いろんな面で議論されておりますので、これについてはあえてコメントは差し控えたいというふうに思えます。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そうすることで3回にわたって、基本構想分科会を開催しまして、最終的には、申し上げた部分を整理して、分科会長報告としたいというふうに思えます。よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは以上で基本構想分科会を終わります。お疲れ様でした。

午前11時40分 散会

令和3年12月3日

総合計画審査特別委員会基本構想分科会長 笹木慶之